27 ところが、父ときたらのん気なもので、兵隊として中国へ行ってまでも、凧（たこ）を作っていたんですって。
28 そのことは、父が戦死した後、遺品（いひん）をとどけてくれた戦友の吉野さんから聞いて分かりました。

文図・語彙・文法

27　ところが、

父ときたら ―――― のん気なもので

兵隊として中国へ行ってまでも

凧を ↓ 作っていたんですって。

ときたら　【と来たら】（連語）
主題を特に強調してとりあげるときに用いることば。
「うちの父ー大声でしゃべるものだから…」

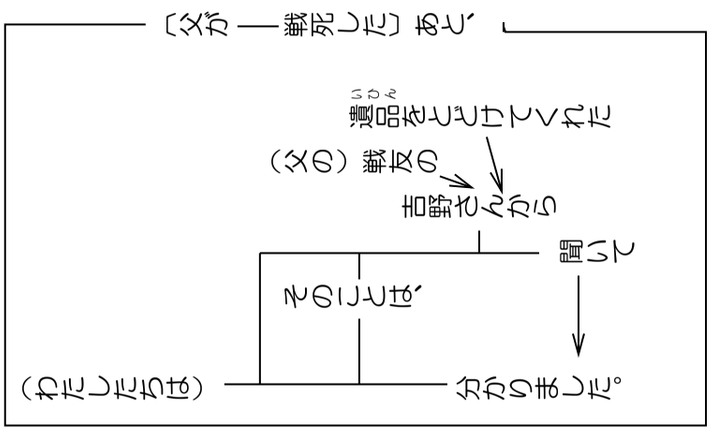
ものだ　（既出）
本文の場合、
③　感心、あきれをあらわす
個別的なことがらに対する、ふつうでないという評価（多くはマイナス）を感情的にあらわす。
「日本語の文法 p229 ～」

まで（も）　（とりたて）
極端な例をあげて、そのおよぶ範囲が広いことをあらわす
「日本語の文法 p213 ～」

●　書かれているなかみ（映像・感情・説明）
ここからあと、戦地での父のようすがえがかれる。それは、戦友の吉野さんから聞いた話だ。吉野さんが訪れる前に、父の戦死を知らされていることもわかる。戦後、ある程度たってからのことだろうから、わたしも聞いていたのかもしれない。ただ、この後に描かれることは、吉野さんの心を通したものであり、さらにそれを聞いた母の心を通したものだろう。それを聞いたわたしの思いも反映される。感情的な側面は、複雑なものがある。その点には注意して読まねばならない。
また、映像描写は、吉野さんのものだとも。

T　「ところが」で結ばれている。前にも出てきたな。
C　前のことと話がくいちがっている。
C　予想したようにはなっていない
T　お母さんは、父がいなくなったあと、女で一人で頑張っていたということが、前のところでわかった。
さて、ここは？
C　父のこと
C　父ときたら
T　父は、どうだって？
C　のんきなもので、
C　凧を作っていた
T　そうだね。もう一つなかみのわかることがあるよ
C　父は、兵隊として中国に行っている
T　そうだね。では、文を整理しながら、なかみを読んでいくよ。
まず、「父は」とは書いてないで、「父ときたら」になっている。父のことにはちがいないんだけど、気持ちが入っているようだよ。どう？（例が必要かどうか）
ア、お母さんは、今日も長電話をしている。
イ、お母さんときたら、今日も長電話をしている。
C　イのほうは、お母さんのことに腹を立てている
C　イのほうは、あきれている感じがする
T　そんな感じもするね。「ときたら」というのは、いいたいことを強めてとりあげていうときにつかうんだ。
ウ、お母さんときたら、きれいずきで、よくそうじをしている。
とかね。でも、気持ちが入っている。それは、そのあとの書き方とも関係があるんだ。
まず、「お父さんときたら、のんきなもので」となっているね。「お父さんは、のんきで」とは、ずいぶんちがうみたい。
C　やっぱりあきれている。
C　もう、お父さんったらのんきなんだから、みたいな感じ。
T　そういう感じだね。そして、「お父さんたっら、凧を作っていたんですって。」になっている。この文は、くわしくな

っているよね。
Ｃ　中国へ行ってまでも。
Ｃ　兵隊としていってまでも。
Ｔ　つまり、お父さんは、何をしにいっているの？
Ｃ　戦争。
Ｔ　戦争ということは、兵隊さんたちはどうなの？
Ｃ　殺されるかもしれない。
Ｃ　殺すこともある。
Ｔ　それが戦争だ。ところが、「お父さんときたら、」？
Ｃ　凧を作っていた。
Ｃ　のんきだ。
Ｔ　そうだね。じゃあ、もっとはっきりさせるために、次の文を比べてみて。
ア、お父さんときたら、兵隊として中国に行ってまでも、凧を作っていたんですって。
イ、お父さんは、兵隊として中国にいって、凧を作っていた。書いてあることは、同じだよ。
Ｃ　やっぱり、お父さんったらとなったら、あきれている。
Ｃ　「いって」と「いってまでも」もちがう。普通だったら、兵隊として中国に行ったら、凧なんか作らない。
Ｃ　だから、のんきなんだ。
Ｃ　「つくった」と「作っていたんですって」も、ほんとうにもう、しょうがないんだから、みたいな感じがする。
Ｔ　そうだね。うんと、気持ちが入っている言い方になっているね。
　「までも」というのは、次のような使い方をする。
・弟はカレーが好きで、最後には、さらまで（も）なめる。
普通は、ここまでしない。それくらい好きだということなんだ。みんなにもあると思うよ。アニメ好きの人が、授業中の時まで、マンガを書いている、とかね。
　そして、「作っていたんですって」というのは、あきれているというよりも、・・・今までもでてきた。
Ｃ　聞いたこと。
Ｃ　聞いたことを相手に教えている。
Ｔ　よく覚えていたね。この物語は、わたしが聞いたことをだれかに教えているという書き方で書かれているからね。そのひとつだ。でも、「お父さんたっら、作っていたんですって」ということになると、やっぱり、困ったものだ、あきれた、という気持ちが入っているみたいだね。
　そういう気持ちになったのは、だれ？
Ｃ　お母さん。
Ｔ　そうだね。でも、本当にあきれていたのかどうか、この後をずっと読んで、考えてほしいな。今までのところでも、お母さんのお父さんに対する気持ちは、だいぶわかっているんだけどね。
　では、こんなことがわかったのはどうしてか、次の文を読もう。



せんし【戦死】（名）スル
兵士が戦闘によって死ぬこと。うちじに。
「南方で―する」「―者」

せんゆう【戦友】
戦場でともに戦った仲間。同じ部隊に属している同僚。

いひん【遺品】
(1)死者の残した品物。「亡き父の―」

ふしてくれる（既出）

から格
①間接的な対象をあらわす（もの名詞、人名詞）
ア、とりはずすところ　かべから絵をはがす
イ、あいて（人名詞）　さるは桃太郎かきびだんごをもらった
ウ、いいだす人　その意見は、友だちから出た。
エ、直接つたえる人　わたしから先生につたえます。
オ、原料　プラスチックは石油から作る
カ、構成要素
②動作や状態のかかわる場所をあらわす　（略）
③動作や状態の始まる時間や場所をあらわす　（略）
「日本語の文法 p42ふ」

＊本文は、イの用法

T　いつのことを？
C　父が戦死したあと
T　父が戦死したんだ。戦死というと？
C　戦争で死んだ。
C　敵の銃で撃たれて殺された。
T　そうだね。父は、戦争で死んだんだ。それがわかった時って、お母さんは、どうだっただろうねえ。
C　悲しかった。
C　泣いたと思う。
C　つらかった。
C　これから、どうしようと思った。
T　うん。きっといろんな悲しい気持ちがあっただろうね。だいいち、戦争に自分から行ったんじゃなく、連れていかれたんだし、赤んぼうが生まれたばかりでいったからね。
　ところで、お父さんが戦死したのを、どうやってしったんだとおもう？
C　だれかが教えてくれた。
T　戦争中のことだからね。今みたいに、ニュースで教えてくれたりしない。郵便で、戦死の知らせがきたんだ。そして、白い布で包まれた箱がきた。
C　あっ、お父さんの骨だ。葬式で見たことある。
T　そうだね。死んだら、お葬式をする。その時には、かならず、その人のお骨をお墓に埋葬するものだ。でもね、戦争だから、ほとんどの兵隊は、死んでも、そのままだった。遺体が帰ってきたりはしなかったんだ。だから、骨もない。箱だけ。運がよければ、その人のものが入っていたかもしれないけど、そんなこともほとんどなかったみたいだよ。死んだ場所の土が入っていたりして・・・・。それが、戦争だ。
　そんなことだから、お母さんは
C　つらかった。
T　よけいにつらかっただろうね。でも、戦争中は、戦死しても、人前で泣いたりはできなかったんだ。戦死は、お国のために死んだんだから、名誉なことだって。いいことだって。だから、泣いちゃいけなかったんだ。本当は、みんなつらかったんだろうけどね。
　そういう、悲しいできごとがいろいろあったんだよ。そのあとのことだ。
T　文の最後、なんて書いてある？
C　わかりました。
T　だれがわかったんだろう。
C　お母さん。
C　わたしも
T　わたしが何かわからないけど、わかる年になっていたかもしれないね。
　＊　「そのことは」が主語かもしれないが、「わかる」という動詞の対象が「そのことは（が）」となっているととらえている。「ぼくは、サッカーが好きだ。」
T　何がわかった？
C　そのこと

Ｃ　父が、中国へ行ってまでも凧をあげていたこと。
Ｔ　前の文に書かれていたことだね。
　どうしてわかったかということ？
Ｃ　吉野さんから聞いて。
ＣＣ　戦友の吉野さんから聞いて、
ＣＣ　遺品を届けてくれた吉野さんから聞いて
Ｔ　吉野さんという人から聞いたんだ。この吉野さんは、お父さんの戦友だった。戦友ってわかる？
Ｃ　友だち。
ＣＣ　いっしょに戦争した人。
Ｔ　戦争で、同じところ（部隊）にいて、いっしょに戦った人を、戦友というんだ。ただの友だちじゃない。生きるか死ぬかというところで、いっしょにいた人同士だから。その人が帰ってきたということは、・・・・・
Ｃ　戦争が終わった
Ｔ　うん。戦争がどんどん大きくなったときに、お父さんは連れていかれたんだから、途中で帰ってくるということはほとんどなかった。戦争が終わってからも、すぐには帰ってこられなかったんだよ。だから、戦争が終わって、ずいぶんたってからかもしれない。戦死の知らせも、ずっと遅かったかもしれないし。
　＊歴史的背景を理解するためにも、事前に平和教育をしておくと効果的だろう。そうすれば、こうした曖昧な解説はしなくてすむし、子どもたちには、もっとリアルにとらえることができる。
Ｔ　さて、その吉野さんが、何をしにきたかということ？
ＣＣ　遺品を届けてくれた
Ｔ　遺品って、わかる？
ＣＣ　死んだ人のもの。
ＣＣ　死んだ人が残したもの。
Ｔ　吉野さんは、お父さんのものを持って帰ったんだ。持って帰れるものだから、・・・？
Ｃ　小さいもの。
Ｔ　たぶん、小さいものだろう。それを、届けてくれた。「くしてくれる」というのは、前にも出てきたよ。
ＣＣ　わたしのためにも届けてくれた。
ＣＣ　お母さんのために届けてくれた。
ＣＣ　わたし達のために届けてくれた。
Ｔ　そうだろうね。それだけ、吉野さんはお父さんのことを気にかけ、家族のことを思っていたんだろう。
　その吉野さんから、
ＣＣ　そのことを聞いた
ＣＣ　中国で凧をあげていたことを聞いた。
Ｔ　それで、わかったんだね。話を聞くまでは、まさかお父さんが、戦争に行ってまで凧を作っていたなんて思ってもいなかった。
Ｃ　だから、あきれた。
Ｔ　家にいるとき同じだったからね。でも、そのなかみには、いろいろある、これからあとの文は、吉野さんから聞いた話だよ。